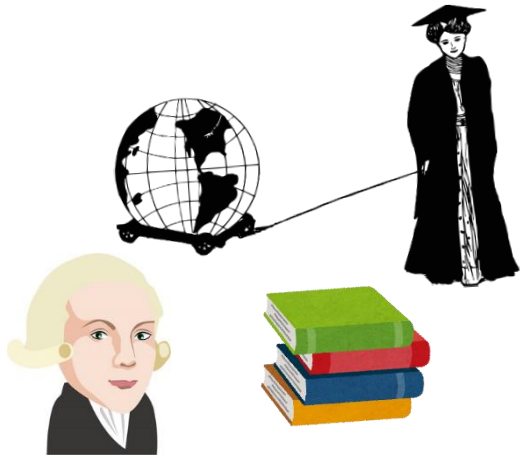
超速習 経済学マスター！
ちょう そく しゅう けいざいがく

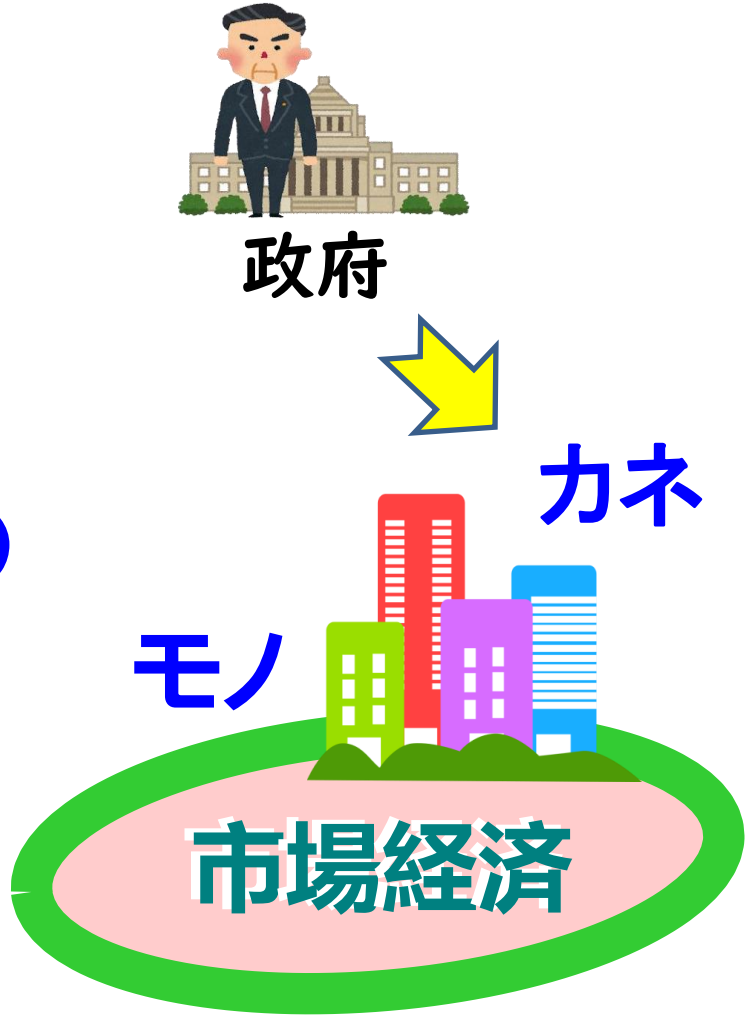
経済理論（後編）
けいざい りろん こうへん

- マクロ -



アダム・スミス
ミクロ

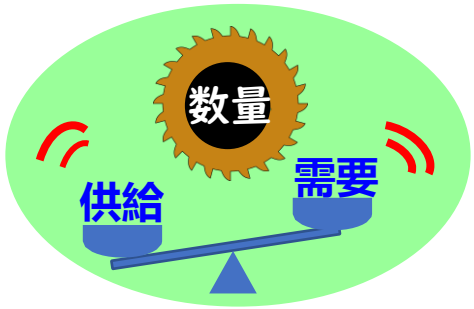
ケインズ
マクロ



講師 有馬秀次

もくじ

1. 1929年の大恐慌！
だいきょうこう
2. ジョン・メイナード・ケインズ
3. 有効需要の原理
ゆうこう　じゅよう　げんり
4. 乗数理論
じょうすう　りろん
5. 無限等比級数の和の公式
むげん　とうひ　きゅうすう　わ　こうしき
6. 市場均衡しない理由
しじょう　きんこう　りゆう
7. 需要不足と経済政策
じゅよう　ぶそく　けいざい　せいさく

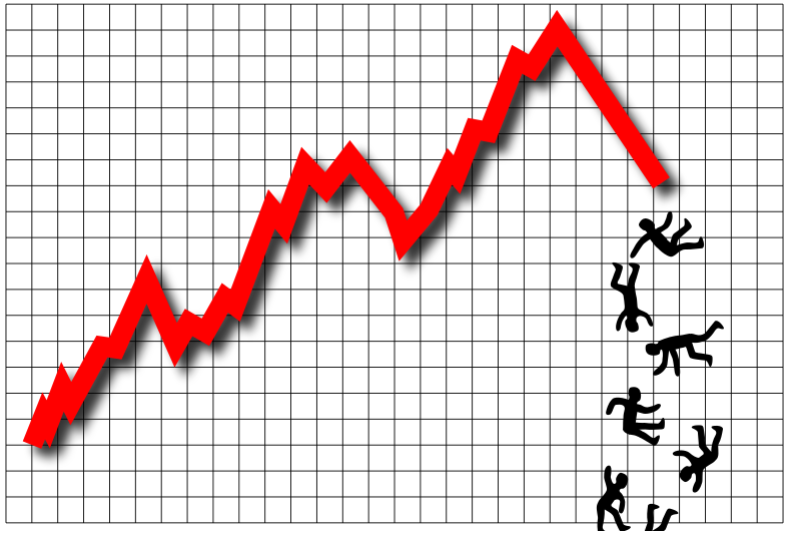


1. 1929年の大恐慌！

だいきょうこう

世界経済ニュース
せかい　けいざい

ニューヨーク株式市場
かぶしき　しじょう



1929年 大恐慌
だいきょうこう

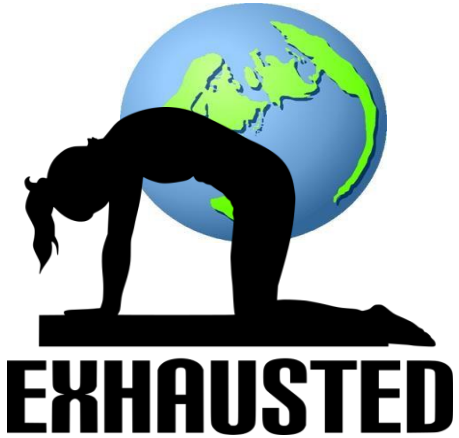
株価大暴落
かぶか　だいぼうらく

⇩

企業倒産
きぎょう　とうさん

⇩

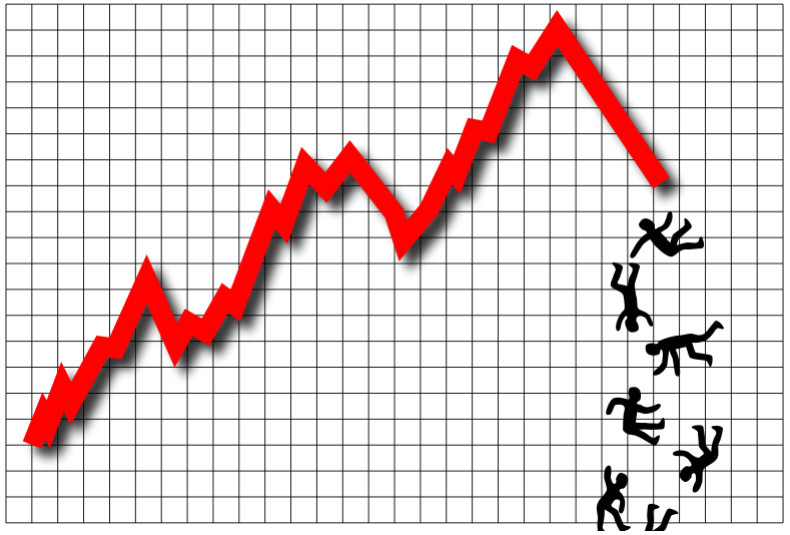
大量失業者
たいりょう　しつぎょうしゃ



１９２９年に起こった長期間におよぶ世界的な不景気を大恐慌といいます。不景気とは、取引高が減少していく中で、多くの企業が倒産して失業者が町に溢れる状況のことです。

世界経済ニュース
せかい　けいざい

ニューヨーク株式市場
かぶしき　しじょう



1929年 大恐慌
だいきょうこう

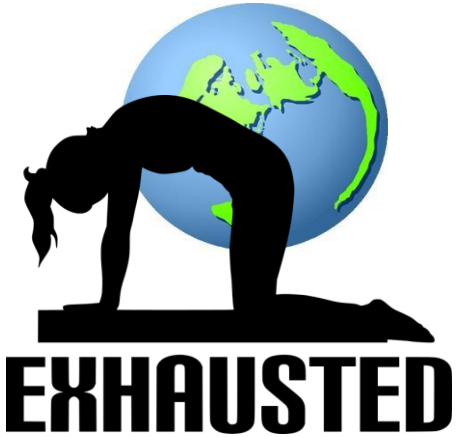
株価大暴落
かぶか　だいぼうらく

⇩

企業倒産
きぎょう　とうさん

⇩

大量失業者
たいりょう　しつぎょうしゃ



そこで、この大恐慌から経済を立て直す救済策を提唱したのが、ジョン・メイナード・ケインズです。

2. ジョン・メイナード・ケインズ

（1883年−1946年）

ケインズ経済学
けい　ざい　がく

ジョン・メイナード・ケインズ

（John Maynard Keynes　1883-1946）

イギリスの経済学者
けいざい　がくしゃ

ジョン・メイナード・ケインズは、20世紀のイギリスの経済学者です。

『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)
こよう　りし　かへい　いっぱん　りろん

有効需要の原理 －（所得理論）
ゆうこう　じゅよう　げんり　しょとく　りろん

ケインズは、1936年に『雇用·利子および貨幣の一般理論』を出版しました。そこで「有効需要の原理」という所得理論を発表しました。

所得理論って何？
しょとく　りろん　なに

経済の本質
けいざい　ほんしつ

↓

取引
とりひき

商品 しょうひん　交換 こうかん　代金 だいきん

取引成立
とりひき　せいりつ

- **価格** — **価格理論**
- **ミクロ経済学**
- **マクロ経済学**
けいざいがく
- **取引量**
とりひきりょう
- **所得理論**
しょとく　りろん

所得理論とは、取引量がどのように決定されるかを説明する理論のことです。ここで、取引量とは、一国の総取引量のことです。総取引量の価値を貨幣単位で表したもの（金額ベース）を総取引といいます。総取引は、総生産や総所得のことを指します。総生産から最適な資源配分のあり方を考える研究をマクロ経済学といいます。

一国の経済規模
いっこく　けいざい　きぼ

総取引（そうとりひき）
- **総需要**（そう じゅよう）
- **総供給**（そう きょうきゅう）
- **総生産**（そう せいさん）
- **総所得**（そう しょとく）
  - **生産国民所得**（せいさん こくみんしょとく）— 一年間に各産業で生産された付加価値の合計（いちねんかん かくさんぎょう せいさん ふかかち ごうけい）
  - **分配国民所得**（ぶんぱい こくみんしょとく）— 賃金・利潤・地代・利子の合計（ちんぎん りじゅん じだい りし ごうけい）
  - **支出国民所得**（ししゅつ こくみんしょとく）— 消費・投資・政府・(輸出−輸入)の合計（しょうひ とうし せいふ ゆしゅつ ゆにゅう ごうけい）

但し、国民総所得＝国民所得(市場価格表示)＋固定資本減耗
（ただ こくみんそうしょとく こくみんしょとく しじょうかかくひょうじ こていしほんげんもう）

総取引とは、総需要と総供給が等しいときの取引額のことです。総取引、総需要、総供給はすべて等しくなります。また、総取引は、総生産、総所得とも等しくなります。国民所得を生産面から捉えたものを生産国民所得、分配面から捉えたものを分配国民所得、支出面から捉えたものを支出国民所得といいます。

最適（さいてき）

- 市場均衡（しじょうきんこう） …… ミクロ経済学（けいざいがく）
- 完全雇用（かんぜんこよう） …… マクロ経済学（けいざいがく）

不均衡（ふきんこう） ＝ 過少雇用（かしょうこよう） …… ケインズの主張

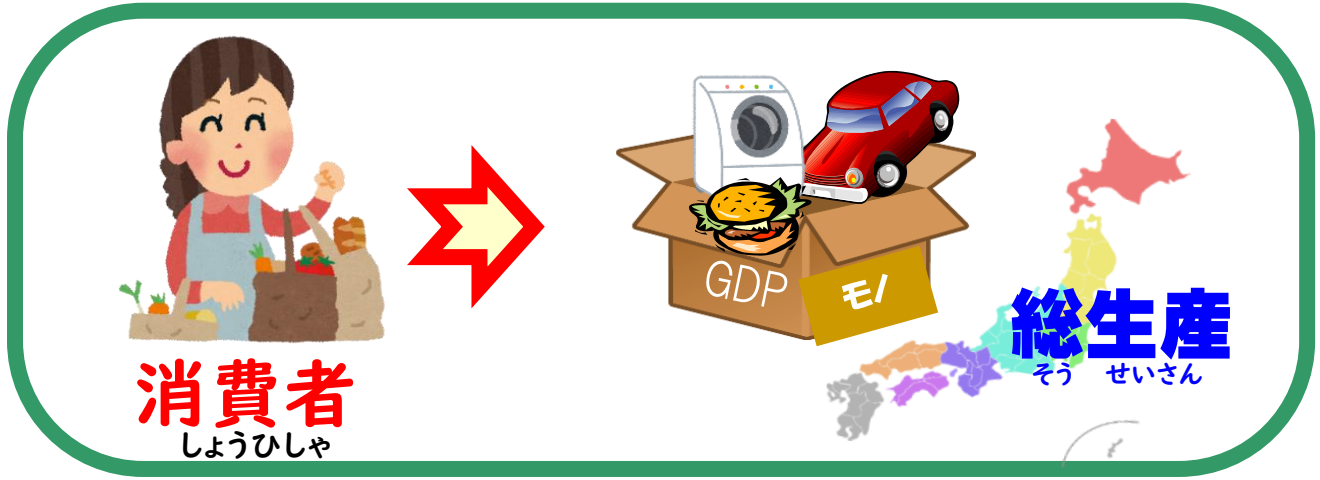
ところで、ミクロ経済学では、市場均衡を最適と捉えました。一方、マクロ経済学では、完全雇用を最適と捉えます。完全雇用とは、働きたい人が全員働ける（失業者がいない）状態のことです。なお、不均衡とは、過少雇用（失業者がいる）状態のことです。

3. 有効需要の原理

ゆうこう　じゅよう　げんり

有効需要の原理
ゆうこう　じゅよう　げんり

“有効需要が総生産（GDP）の大きさを決める”
ゆうこう　じゅよう　そうせいさん　ジー・ディ・ピー　おお　き



「有効需要の原理」とは、「需要が総生産（GDP）を決定する」と考える所得理論のことです。ケインズは、需要のことをあえて有効需要と言い換えました。

「需要」と「有効需要」の違い

じゅよう　ゆうこう　じゅよう　ちが

需要（じゅよう） ➡ 購買欲求（こうばいよっきゅう）

有効需要（ゆうこうじゅよう） ➡ 貨幣的支出（かへいてきししゅつ）

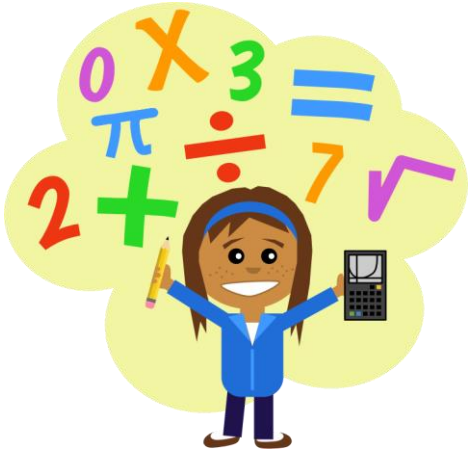
「需要」とは、ある商品を欲しいと思っている人の購買意欲のことです。アダム・スミスは、「市場メカニズムの働き」に着目し、財の「供給」に合わせて「需要」が生じて、市場は均衡すると考えました。これに対してケインズは、需要（購買意欲）には、「財は欲しいが、お金の支払用意はない」という購買意欲も含まれていると考えました。そこで、実際にお金を支払って（貨幣的支出という）財を購入した分だけを「有効需要」と呼びました。ケインズは、実際には市場メカニズムは働かず、「需要」は不足すると指摘したのです。総需要の分だけ取引が成立するので、市場は過少均衡すると考えました。

4. 乗数理論

じょうすう　　りろん

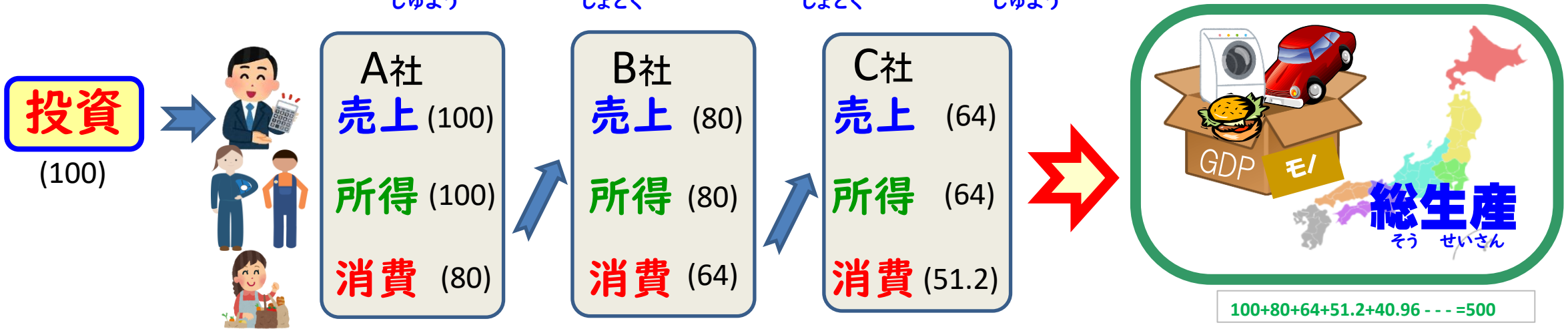
GDPの計算！

ジー・ディ・ピー　けいさん



乗数理論
じょうすう　りろん

“需要が所得を、所得が需要を呼ぶ”
じゅよう　しょとく　しょとく　じゅよう



100+80+64+51.2+40.96 - - - =500

「有効需要の原理」を端的な数理で説明するのが「乗数理論」です。「今、一国全体の投資需要が100兆円増えるとします。すると、それはどこかの企業(A社)の売上になり、その会社(A社)の従業員の所得になります。その従業員が、その所得の一定割合(0.8)を消費すれば、それは別の企業(B社)の売上となり、その会社の従業員の所得になります。その従業員が所得の一定割合(0.8)を消費すれば、それは別の企業(C社)の売上となり、その会社の従業員の所得となります。」乗数理論は、「このプロセス(過程)が無限に続くと、最初の需要(100兆円)は数倍(5倍)の総所得(500兆円)を生み出す」と説明する理論です。

乗数理論
じょうすう　りろん

有効需要×乗数＝GDP（国内総生産）
ゆうこう　じゅよう　じょうすう　ジー・ディ・ピー　こくないそうせいさん

100×5＝500 兆円

「有効需要の原理」は、乗数理論から「GDP＝有効需要×乗数」という数式で表せます。GDP（国内総生産）は、有効需要を乗数倍することで求められるという数式です。たとえば、最初（期首）の有効需要が100兆円で乗数が5倍であれば、GDP（国内総生産）は500兆円になります。

5. 無限等比級数の和の公式

むげん　とうひ　きゅうすう　わ　こうしき

実は、GDPは、“無限等比級数の和の公式”で計算したものです！

じつ　ジー・ディ・ピー　むげん　とうひ　きゅうすう　わ　こうしき　けいさん

$$\text{総和(S)} = \frac{\text{初項(a)}}{1 - \text{公比(r)}}$$

そうわ　エス　しょこう　エー　こうひ　アール

ただし、0＜r＜1とする

初項(a) ⇨ 有効需要(100)

しょこう　エー　ゆうこう　じゅよう

公比(r) ⇨ 限界消費性向(0.8)

こうひ　アール　げんかい　しょうひ　せいこう

$$\frac{100}{1 - 0.8} = \frac{100}{0.2} = 500$$

実は、GDP（総生産）は、「無限等比級数の和の公式」を使って計算されます。無限等比級数の和の公式の初項（a）に有効需要を、公比(r）に限界消費性向を代入すると、総和（S）にGDP（総生産）が計算されます。たとえば、有効需要(100)、限界消費性向(0.8)ならば、GDPは(500)と計算されます。

無限等比級数の和の公式
むげん　とうひ　きゅうすう　わ　こうしき

$$\text{総和}(S) = \frac{\text{初項}(a)}{1 - \text{公比}(r)}$$
そうわ　エス　しょこう　エー　こうひ　アール

少し、書き換えると、
すこ　か　か

$$\text{総和}(S) = \boxed{\text{初項}(a)} \times \boxed{\frac{1}{1 - \text{公比}(r)}}$$
そうわ　エス　しょこう　エー　こうひ　アール

ただし、
$0 < r < 1$ のとき

$$\text{GDP} = \boxed{\text{有効需要}} \times \boxed{\text{乗数}}$$
ジー・ディ・ピー　ゆうこう　じゅよう　じょうすう

初項(a)は有効需要を、1/(1-r)は乗数を表します。

乗数の計算式
じょうすう　けいさんしき

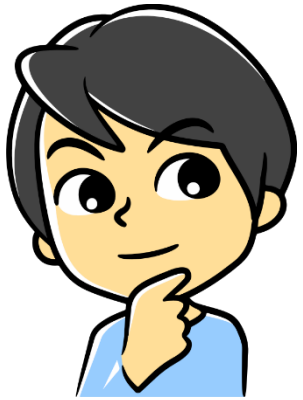
$$\text{乗数（じょうすう）} = \frac{1}{1 - \text{限界消費性向（げんかいしょうひせいこう）}}$$

たとえば、限界消費性向（げんかいしょうひせいこう）:0.8

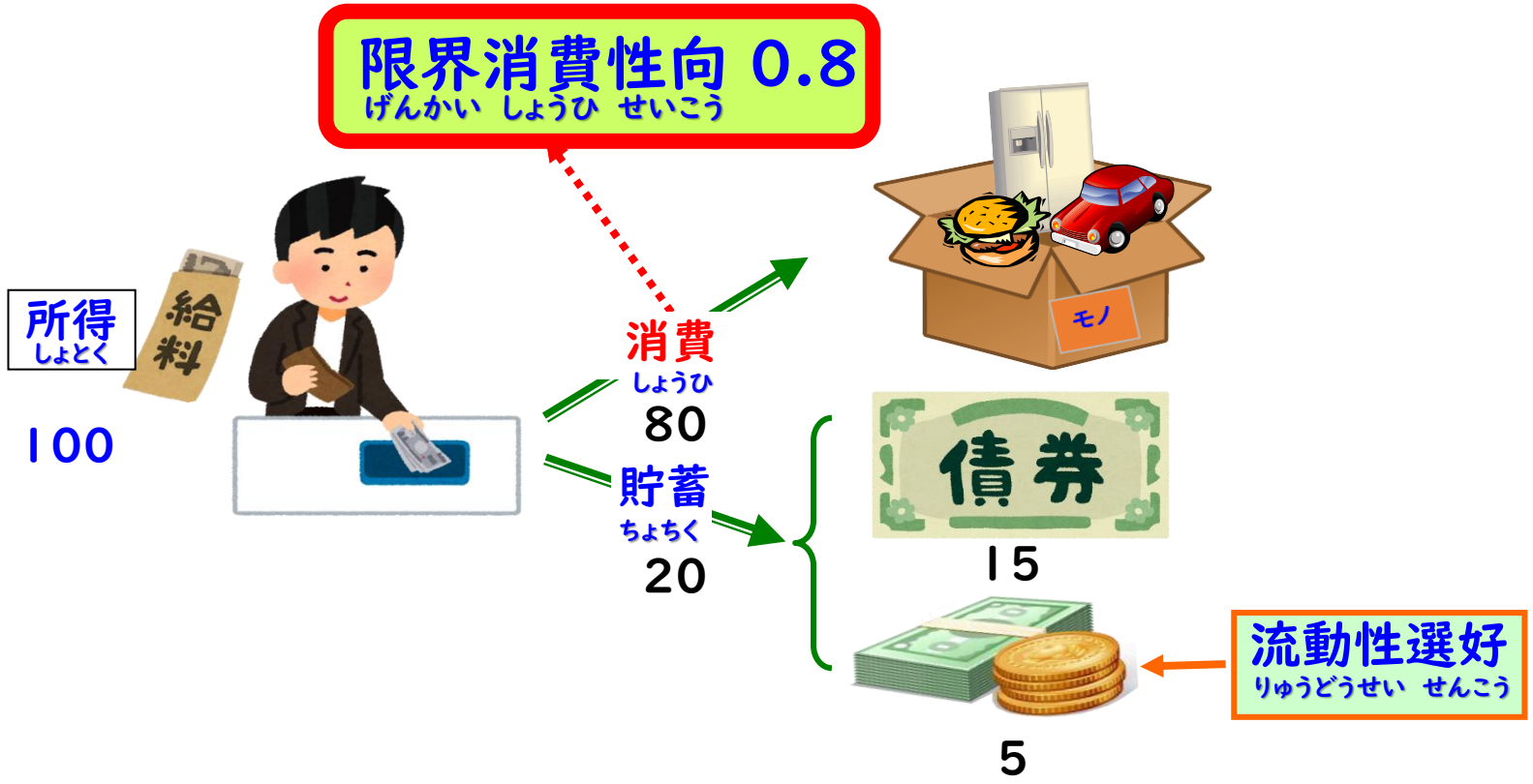
$$\frac{1}{1 - 0.8} = 5$$

⇦ 乗数（じょうすう）が求（もと）められた！

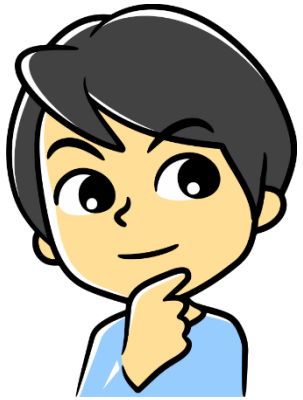
乗数は、1/(1−r)の式で計算されます。公比rに限界消費性向を代入すると求められます。限界消費性向が0.8であれば、乗数は5倍となります。



限界消費性向って何？
げんかい しょうひ せいこう なに



ここで、限界消費性向とは、所得から消費に回す割合のことです。たとえば、消費者が所得の80パーセントを消費に回すとき、限界消費性向は0.8となります。



ところで、有効需要はどう計算するの？

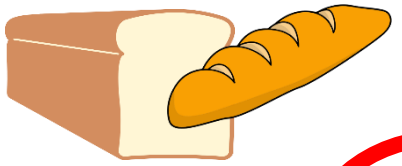
ゆうこう　じゅよう　けいさん

有効需要＝基礎消費＋投資

ゆうこう　じゅよう　きそ　しょうひ　とうし

たとえば、基礎消費：80　投資：15

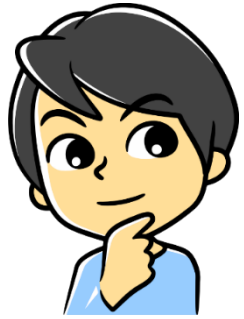
きそ　しょうひ　とうし



80 ＋15 ＝95兆円 ⇦ 有効需要が求められた！

ゆうこう　じゅよう　もと

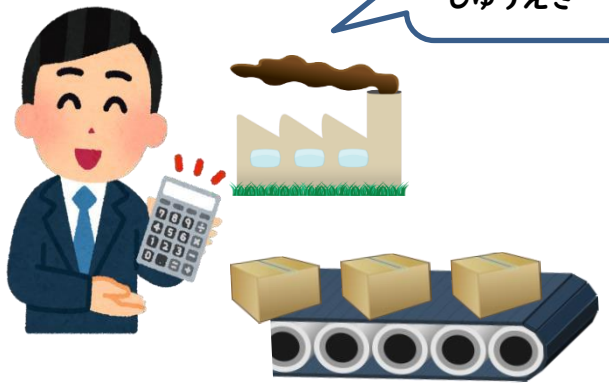
ところで、ケインズは、有効需要を基礎消費と投資を合わせたものと位置づけました。基礎消費とは、生活必需品に対する需要のことです。投資とは、企業の設備投資のことです。たとえば、基礎消費が80、投資が15であるとき、有効需要は95兆円と計算されます。



投資（とうし）

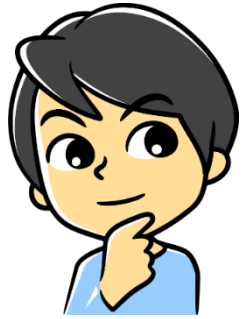
企業が購入する設備（機械、工場）
きぎょう　こうにゅう　せつび　きかい　こうじょう

収益＞費用 のとき、**利潤（儲け）が出るので投資する！**
しゅうえき　ひよう　りじゅん　もう　で　とうし



予想収益率 ＞ 金利（費用）
よそう　しゅうえきりつ　きんり　ひよう

投資とは、企業が新たに利潤を増やすために、自社に設備投資をすることです。投資は、予想収益率が金利を上回っているときに起こります。利潤（儲け）がでるからです。金利は、資金調達にかかる費用のことです。



予想利潤率（資本の限界効率）

よそう　りじゅんりつ　しほん　げんかい　こうりつ

－ 新資本が生み出すと予想される収益率のこと －

しんしほん　う　だ　よそう　しゅうえきりつ

金利＝予想利潤率

きんり　よそう　りじゅんりつ

➡ **利潤最大** となり、**投資額** が決まる

りじゅん　さいだい　とうしがく　き

ここで、さらにもう１単位の投資をすると、予想利潤率は下がるので、

たんい　とうし　よそうりじゅんりつ　さ

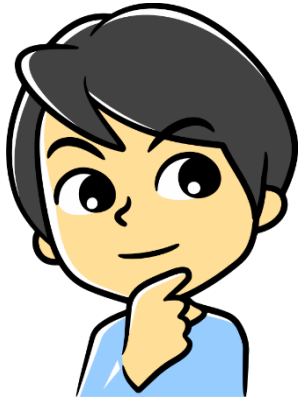
金利＞予想利潤率 となって損失が出る！

きんり　よそうりじゅんりつ　そんしつ　で

限界利潤とは、投資が１単位増えることで増える利潤のこと！

げんかいりじゅん　とうし　たんい　ふ　ふ　りじゅん

投資を１単位増やしたとき、それから発生すると予想される収益率のことを予想利潤率（資本の限界効率）といいます。金利（利子率）と予想利潤率が一致するところで限界利潤はゼロになります。つまり、総利潤は最大化されるため、そこに投資額が決まります。



一方、金利はどこで決まるか？
いっぽう　きんり　き

経済学では、債券を金融商品の代表と考えるよ！
けいざいがく　さいけん　きんゆうしょうひん　だいひょう　かんが

債券市場
さいけん　しじょう

資金運用　　資金調達
しきんうんよう　　しきんちょうたつ

均衡

総供給　＝　総需要

~~消費~~＋貯蓄　　~~消費~~＋投資

↓

貯蓄　＝　投資

貯蓄 ＝ 投資
ちょちく　とうし

となるところに金利が決まる
きんり　き

たとえば、

10兆円	＝	10兆円	7%
15兆円	＝	15兆円	5%
20兆円	＝	20兆円	3%

一方、金利は、債券市場で決まります。経済は、総供給と総需要が等しくなるところで均衡します。これは、貯蓄と投資が等しくなるところです。古典派は、市場均衡に必要な貨幣量が実物経済（モノの交換活動）により決まり、金利はそれに付随して決まると考えます。

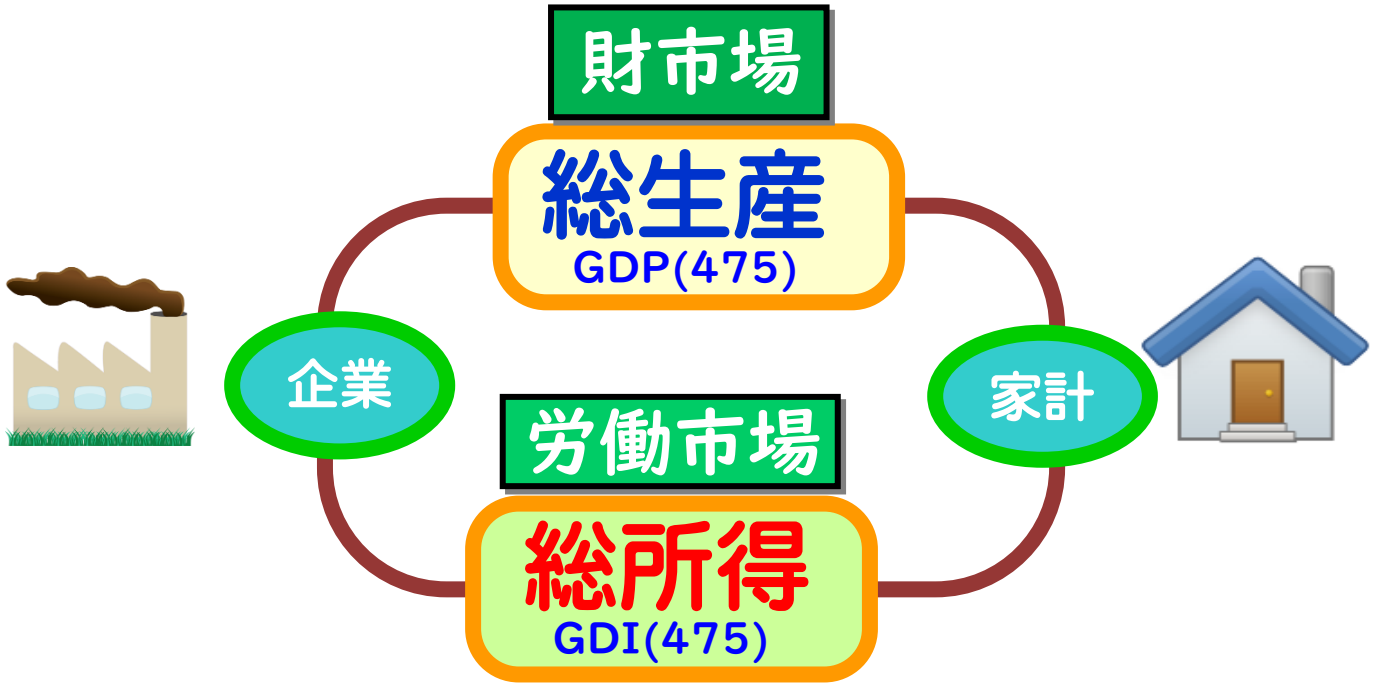
もし、需要が過少ならば、
じゅよう　かしょう

有効需要×乗数＝総生産(GDP)
ゆうこう　じゅよう　じょうすう　そうせいさん　ジー・ディ・ピー

95×5＝475 兆円

過少になる！
かしょう

ケインズは、最初（期首）の有効需要が小さければ、GDPも過少になると考えました。たとえば、有効需要が95兆円で乗数が5倍であれば、GDPは475兆円になります。GDP(500兆円）を完全雇用水準とすれば、GDP（475兆円）は過少雇用（不完全雇用）水準のGDPであることをあらわします。

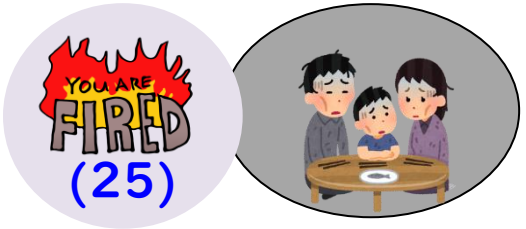


☆ 完全雇用GDPを(500)
かんぜん こよう ジー・ディ・ピー
と想定した場合、(475) は
そうてい ばあい
過少水準になります。
かしょう すいじゅん

完全雇用
GDP(500)

☆ 過少生産＝過少雇用 →
かしょう せいさん かしょう こよう
GDP(475) GDI(475)

過少雇用
GDP(475)



(25)

失業の発生！
しつぎょう はっせい

総所得(475兆円)は、過少雇用(不完全雇用)水準で雇用(労働取引)が成立していることをあらわします。失業(25兆円)が発生している状態です。過少雇用量の労働力を使って生産された総生産量のことを過少雇用GDP(不完全雇用GDP)と呼びます。

6. 市場均衡しない理由

しじょうきんこう　　りゆう

需要が過少になる理由
じゅよう　かしょう　りゆう

(1)　「市場メカニズムの不具合」
しじょう　ふぐあい

価格の下方硬直性（下げ渋り）
かかく　かほう　こうちょくせい　さ　しぶ

(2)　「流動性選好」が投資を過少にする
りゅうどうせい　せんこう　とうし　かしょう

流動性選好が債券保有を減少させる。
りゅうどうせい　せんこう　さいけん　ほゆう　げんしょう

ケインズは、市場均衡しない理由として、(1)「市場メカニズムの不具合」と(2)「流動性選好」を取り上げました。(1)の「市場メカニズムの不具合」とは、価格の下方硬直性のことです。(2)の「流動性選好」とは、家計が資産保有の選択肢に「現金保有」を選んでしまうことです。

(1) 市場メカニズムの不具合

供給＞需要

価格の下方硬直性

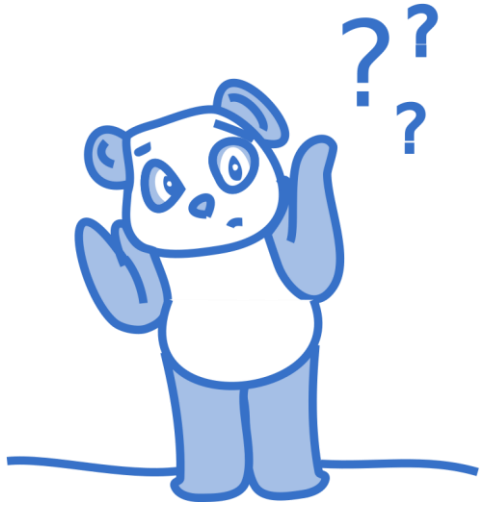
- 価格下げ渋り → 過少雇用総生産 ／ 財市場
- 実質賃金下げ渋り → 過少雇用総所得 ／ 労働市場

「賃金の下方硬直性によって賃金は高止まりして、それが失業を生み出す」というのがケインズの主張です。

価格の下方硬直性とは、「価格が下げ渋る」現象のことです。市況が超過供給状態にあるときに、価格が下がらないと、モノが売れ残ります。財市場では、総生産は過少になります。これを過少雇用総生産といいます。労働市場でも、実質賃金が下がらないと、失業が生じます。労働市場では、雇用は過少になります。これを過少雇用総所得といいます。

(2) 流動性選好って何？
りゅうどうせい　せんこう　なに

流動性選好 → 現金保有を選ぶこと
りゅうどうせいせんこう　げんきん　ほゆう　えら



貯蓄（20）
ちょちく

家計の資産選択
かけい　しさん　せんたく

- **債券保有**（15）
  さいけん　ほゆう
- **現金保有**（5）
  げんきん　ほゆう

※ 経済学では、債券とは、有価証券を代表する商品で、金融商品全般のことを指します。
けいざいがく　さいけん　ゆうかしょうけん　だいひょう　しょうひん　きんゆうしょうひん　ぜんぱん　さ

流動性選好とは、貨幣を安全資産として手元に保有しようとする欲求のことです。これを「現金保有」ということにします。ちなみに、資産選択の方法として、債券保有と現金保有の2つがあると仮定すると、流動性選好は現金保有の欲求のことを指します。

金利と資金量（貨幣量）
きんり　しきんりょう　かへいりょう

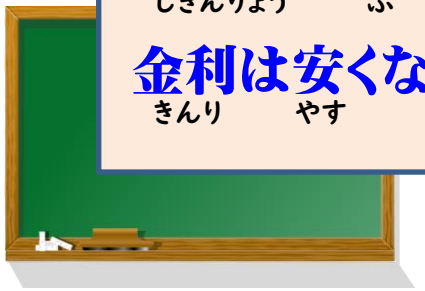
お金を運用したい！
かね　うんよう

資金量（貨幣量）		金利	
しきんりょう　かへいりょう		きんり	
15兆円		5％	金利高い
20兆円		3％	金利低い
			きんり　ひく

きんり　たか

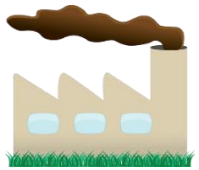
お金の稀少性
かね　きしょうせい

資金量が増えるほど、
しきんりょう　ふ
金利は安くなるよ！
きんり　やす



金利は、お金（資金）の利用料です。貸し出される資金量が豊富であればあるほど、金利は低くなります。逆に、資金が稀少であればあるほど、金利は高くなります。例えば、資金量20兆円に対応する金利が3％であったとします。資金量が減少すると、対応する金利は上昇します。資金量15兆円に対応する金利は5％という具合に上昇します。

債券市場と金利
さいけん　しじょう　きんり



資金運用
しきん　うんよう

資金調達
しきん　ちょうたつ

金利
きんり

家計の債券保有(15)
かけい　さいけん　ほゆう

5%

企業の投資(15)
きぎょう　とうし

過少
かしょう

家計の債券保有(20)
かけい　さいけん　ほゆう

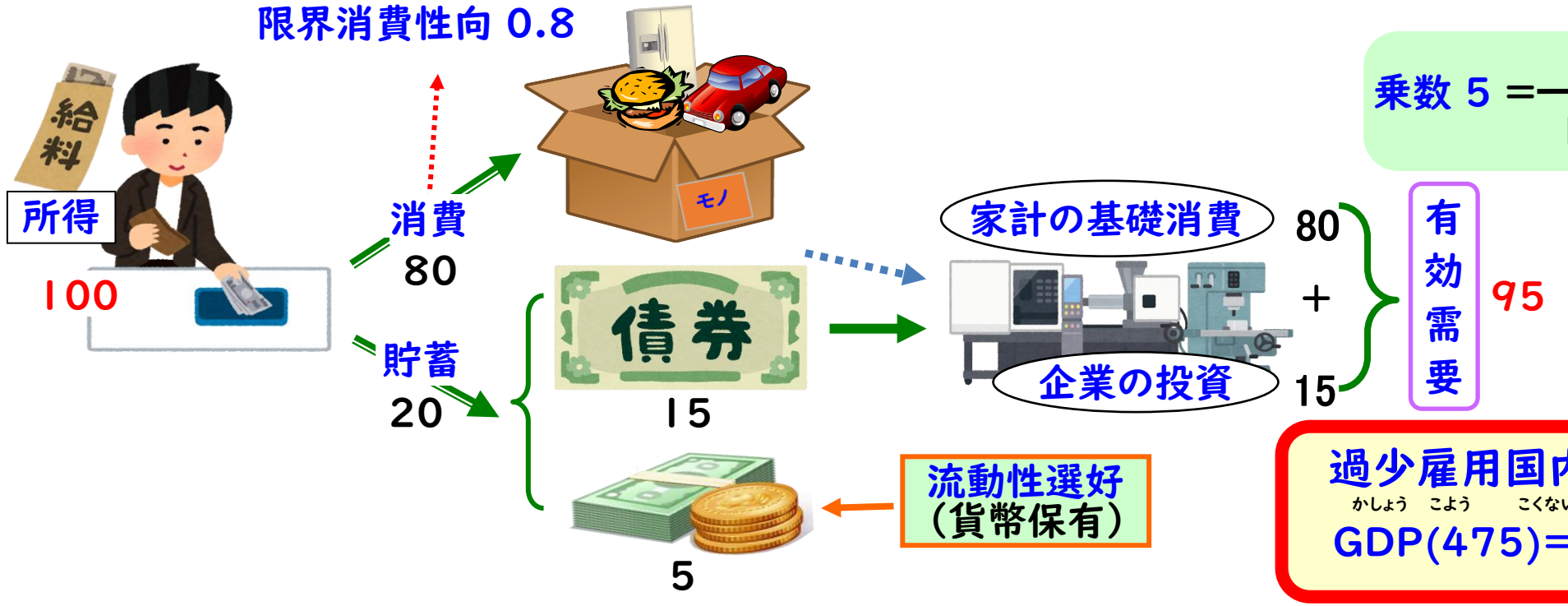
3%

企業の投資(20)
きぎょう　とうし

最適
さいてき

家計が債券保有(20兆円)を行った時、企業の投資は(20兆円)、金利は3%で資金需給は最適な状態と仮定します。ここで、家計が債券保有(15兆円)を行ったとき、企業の投資は(15兆円)と過少になります。金利は5%と高止まりします。つまり、家計に流動性選好(5兆円)があると、企業の投資は、過少になります。

図解　雇用・利子および貨幣の一般理論



$$乗数\ 5 = \frac{1}{1 - 限界消費性向\ 0.8}$$

過少雇用国内総生産

GDP(475)＝有効需要95×乗数5

※ ちなみに、銀行預金は、現金保有ではありません。債券保有に入るとします。預金された貨幣は、銀行を通じて取引に使われているからです。

「有効需要の原理」を図解してみましょう。家計が受取った所得(100兆円)は、消費(80兆円)と貯蓄(20兆円)に振り分けられます。貯蓄は債券保有(15兆円)と現金保有(5兆円)に分けられます。流動性選好がある分、有効需要(95兆円)が過少に抑えられるため、GDPは過少(475兆円)になります。

失業者をなくすには、どうすればいい？
しつぎょうしゃ

7. 需要不足と経済政策
じゅよう　ぶそく　けいざい　せいさく

総供給
そうきょうきゅう

500兆円

完全雇用水準
かんぜん　こよう　すいじゅん

市場取引
しじょう　とりひき

475兆円

交換
こうかん

475兆円

取引成立
とりひき　せいりつ

総需要
そうじゅよう

475兆円

需要不足!!
じゅよう　ぶそく
25兆円

「何を消費するか」の主導権が消費者（家計）にある場合、企業は、有効需要（総需要）の分しか売れません。たとえば、完全雇用水準の総供給が500兆円であるときに、有効需要（総需要）が475兆円しかなければ、25兆円の需要が不足します。

不況の原因は、需要不足！
ふきょう　げんいん　じゅよう　ぶそく

政府
せいふ

経済政策
けいざい　せいさく

市場介入！
しじょう　かいにゅう

一方で、「経済政策は、市場の機能を歪めてしまう」とする反対意見も!?
いっぽう　けいざい　せいさく　しじょう　きのう　ゆが　はんたい　いけん

この需要不足が不況の原因です。それなら、政府が需要をつくってやればよい。これがケインズの提案です。これを経済政策と呼びます。ここでいう経済政策とは、政府（国家）が積極的に市場介入することです。

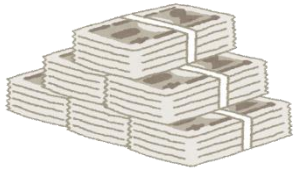
不況の原因は、需要不足！
ふきょう　げんいん　じゅよう　ぶそく

政府
せいふ

経済政策
けいざい　せいさく

総需要管理政策
そうじゅよう　かんり　せいさく

財政政策
ざいせい　せいさく



金融政策
きんゆう　せいさく

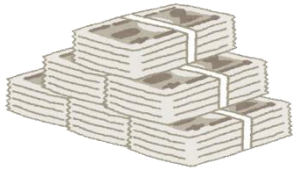
政府が需要を調整する経済政策を「総需要管理政策」といいます。①市場で需要をつくる「財政政策」と、②貨幣供給量を増やす「金融政策」に分けられます。

不況の原因は、需要不足！
ふきょう　げんいん　じゅよう　ぶそく

政府
せいふ

経済政策
けいざい　せいさく

① 財政支出
ざいせい　ししゅつ
（公共事業の拡大）
こうきょうじぎょう　かくだい



② 金融緩和
きんゆう　かんわ

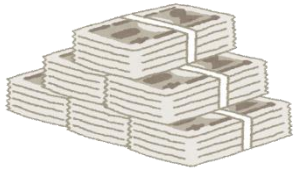
①財政政策として財政支出があります。財政支出とは、公共事業などで政府が市場で買物をすることです。

不況の原因は、需要不足！
ふきょう　げんいん　じゅよう　ぶそく

政府
せいふ

経済政策
けいざい　せいさく

① 財政支出
ざいせい　ししゅつ
（公共事業の拡大）
こうきょうじぎょう　かくだい

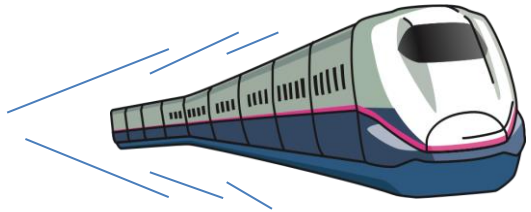


② 金融緩和
きんゆう　かんわ

②金融政策として金融緩和があります。金融緩和とは、金利を下げて貨幣供給量を増やして、有効需要を増やす政策のことです。

手短におさらいしてみましょう！

てみじか



マクロ経済学
けいざいがく

経済の本質
けいざい　ほんしつ

取引
とりひき

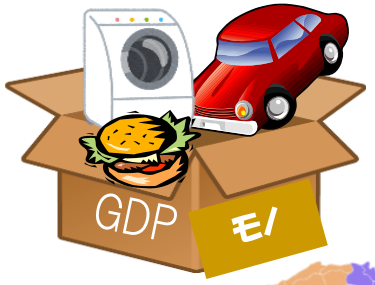
商品
しょうひん

交換
こうかん

代金
だいきん

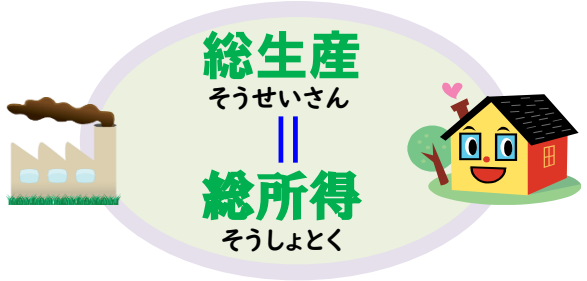
取引量
とりひきりょう

所得理論
しょとく　りろん



マクロ経済学は、一国全体の取引量に着目して、市場経済体制が最適な生産量（完全雇用総生産）を達成できるかどうかを議論する所得理論の研究のことです。

所得理論（総所得）
しょとく　りろん　そうしょとく



ケインズ

需要が総生産を決定
じゅよう　そうせいさん　けってい

↓

結論 けつろん　**過少雇用** かしょう　こう

アダム・スミス

供給が総生産を決定
きょうきゅう　そうせいさん　けってい

↓

結論 けつろん　**完全雇用** かんぜん　こう

有効需要の原理
ゆうこうじゅよう　げんり

基礎消費
きそ　しょうひ

投資
とうし

総生産
そうせいさん

セイの販路法則
はんろ　ほうそく

企業が供給量を決める
きぎょう　きょうきゅうりょう　き

総生産
そうせいさん

ケインズは、「有効需要の原理」（需要が総生産を決定する）という所得理論を発表し、市場経済のもとで、過少雇用に陥る現象を説明しました。一方、アダム・スミスは、「市場経済に任せておけば、完全雇用が実現する」と考えました。この学説は、「セイの販路法則」（生産したものは、すべて売り切れる）で解釈すると、「供給が総生産を決める」という所得理論と位置づけられます。

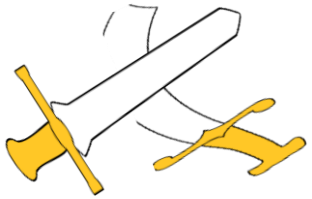
対立する学説
たいりつ　がくせつ

アダム・スミス

市場メカニズム
しじょう
市場均衡
しじょう　きんこう

財市場
ざい　しじょう

安定
あんてい



金利裁定
きんり　さいてい
金利平価
きんり　へいか

金融市場
きんゆう　しじょう

不安定
ふあんてい

ケインズ

※　金融市場とは、有価証券を売買する市場のことです。金利裁定は、金利決定のしくみのことです。金利平価は、均衡金利のことです。
きんゆうしじょう　ゆうかしょうけん　ばいばい　しじょう　きんりさいてい　きんりけってい　きんりへいか　きんこうきんり

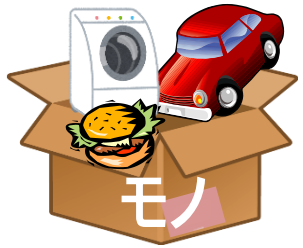
将来へのリスク（不確実性）が、人間の行動に影響するかいなかは、議論のわかれるところです。アダム・スミスは、「市場経済は市場均衡して安定する」と考えたのに対し、ジョン・メイナード・ケインズは、「市場経済は均衡しない、不安定なものだ」と考えました。

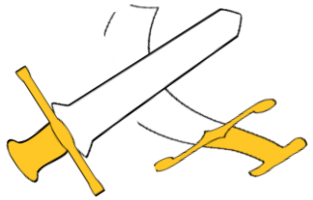
対立する学説
たいりつ　がくせつ

実物経済
じつぶつ　けいざい

アダム・スミス

財市場
ざい　しじょう





貨幣経済
かへい　けいざい

金融市場
きんゆう　しじょう

ケインズ

※　実物経済は、「モノとカネの交換」の活動です。一方、貨幣経済は、「モノとカネの交換」及び「カネとカネの交換」の活動のことです。
じつぶつけいざい　こうかん　かつどう　いっぽう　かへいけいざい　こうかん　および　こうかん　かつどう

極論すると、アダム・スミスは「経済（取引）を動かしているのは人間の行動であって、お金ではない」と考えるのに対し、ケインズは「お金が経済（取引）を動かす」と考えています。

まとめ

① 「有効需要の原理」は、「需要がGDPを決定する」という所得理論である。
ゆうこう じゅよう げんり じゅよう ジー・ディ・ピー けってい しょとくりろん

② GDPは、有効需要×乗数で求められる。
ジー・ディ・ピー ゆうこう じゅよう じょうすう もと

③ 市場メカニズムの不具合とは、（1）価格、（2）実質賃金 が下げ渋ることである。
しじょう ふぐあい かかく じっしつ ちんぎん さ しぶ
これを価格の下方硬直性という。
かかく かほう こうちょくせい

④ 資産選択に「流動性選好」があると、投資が過少となり、過少雇用GDPとなる。
しさん せんたく りゅうどうせい せんこう とうし かしょう かしょうこよう ジー・ディ・ピー

⑤ 政府が需要の不足を補えば、完全雇用が実現する。
せいふ じゅよう ふそく おぎな かんぜん こよう じつげん

⑥ 財政政策とは、政府が公共事業などで買物をすることである。
ざいせい せいさく せいふ こうきょう じぎょう かいもの

⑦ 金融政策とは、金利を下げて、貨幣供給量を増やすことである。
きんゆう せいさく きんり さ かへい きょうきゅうりょう ふ

では、また次回

制作 金融大学